



# 三条ロータリークラブ週報

1987. 6. 10

No. 1512

No. 48

ROTARY BRINGS HOPE

## ロータリーは 希望をもたらす



国際ロータリー会長 M. A. T. カバラス 第256地区ガバナー 藤田 説量 (三条)

会長 — 日戸 平太 幹事 — 上木 六治 SAA — 外山 雅也

例会日 毎週水曜日 12:30

例会場 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内 (TEL 34-3311)

事務局 三条市旭町2-5-10 (TEL 35-3477)

出席率: 会員 65名中 43名 : 先々週出席率: 89.23% (前年同期 89.39%)

今日のお花: くちなし、トルコ桔梗、菊

ヴィジター: 舞鶴東より 西野 正君

加茂より 大橋栄雄君

三条南より 鈴木幸一君、石田行雄君

ゲスト:

先週のメイクアップ: 5/30 熱海南へ 森井 司君

6/3 吉田へ 吉井俊介君

6/8 三条南へ 五十嵐晋三君、古沢富雄君、斎藤弘文君、  
岩井和夫君、藤田紘一君

6/8 新潟北へ 斎藤権八君

6/9 三条北へ 斎藤弘文君、箱崎源伸君、中川由春君、大谷幸平君、  
加藤紋次郎君

会長挨拶: 日戸会長

香ばしいカレーのかおりで「はら時計」は先程からボンボン鳴っていました。

昨夜ホームステイのエミー嬢が「めずらしいの時計」「面白いの時計」の腕時計を買って来ました。「の」の入る日本語は小錦関のインタビューに聴かれます。彼女の日本語は、小錦関とよい勝負をするでありましょう。

その時計の文字盤は、子、丑、寅の十二支でありました。「和時計」は灯台型、印籠型、箱

枕型など置時計ですが、これらの十二支は左まわりであります。

日本に始めて時計をもたらしたのはキリスト教宣教師のフラレシスコ・ザビエルだそうです。布教許可に時計がどの位価値があったのでしょうか……。

大名のたつの刻、あるいはうまの刻などという十二支の時間と宣教師の10時12時の時間の出会いは東洋と西洋の出会いであったのでしょうか。東洋で西洋時計をまねた時計を作り得たのは日本だけだったと申します。

今日は6月10日「時の記念日」であります。

#### 幹事報告： 上木幹事

・白根ロータリークラブより 例会変更のご案内

6月18日(木)→6月18日(木)午後6時30分より 金長

・1987年アジア地域大会のご案内

1987年10月12～15日 インド・デリー インディラ・ガンジー屋内スタジアム

#### ニコニコBOX ￥13,000



塩原君 急に転動することになりました。6月8日より、横浜支店に行くことになり、皆様にご挨拶も出来ず、お詫び申し上げます。大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。後任は次長の丸山が支店長に昇格しました。宜しくお願い致します。

堀川君 6月3日、法人会青年部会の会合に浜田(元三条税務署長)代議士より大変有意義な話をききました。その時、金子左武郎さん、中條耕二さんはじめ、三条のみなさんによるしくとの伝言を賜ってきました。

榎本君 丸山金重新会員を迎えて、貴方は親睦委員会に配属されました。よろしく。

吉井君 社員の研修旅行でホンコンへ行って来ました。円高のおかげで国内旅行よりも安く旅行が出来ました。

藤田(紘)君 久しぶりのホームクラブ出席です。

佐藤君 昨夜はロイヤルホテル6階で韓国のメーカーと商社を夕食に招待、岩の原ワインのおいしかったせいか、うまく商談成立、今朝はいささか二日酔い気味です。

帰山君 9日、三条表面処理センターのゴルフコンペに出場して優勝しましたので。

#### 卓話：

大谷幸平会員



今の日本経済が混乱しておりますので、どういう方向に行くのであろうかと云うことを、1月以来色々な本を読んで勉強をして参りました。その中でお話し申し上げたいことは、経済評論家みたいなことを申し上げますが、決して私が考えたのではなくて、一流の先生方の話でありますので、その様にお聞き下さい。

長谷川、加藤、牧野先生等その他色々な本にあります、世界大恐慌の話が出ております。世界中を大恐慌が襲うのではないかと。果して来るのか来ないのか、誰も分からないわけ

で、牧野さんは10兆位の確率で来るかも知れないと、しかし長谷川先生は絶対に来ないと断定をしておられます。

その辺の処は昭和初期の頃と、現在の時期では相違点がある訳で、1929年昭和4年12月24日魔の木曜日、アメリカのウォール街で株が暴落して、6分の1に下ったのですが、それは第一次世界大戦の後遺症であろうといわれ、大戦前は世界の金融がロンドンにあり、戦後はアメリカに金が集まったのですが、当時アメリカは農業国だったので、作っても作っても何でも売れた状態だったので、アメリカに産業革命が起こり、ベルトコンベア方式による量産体制が確立されました。そして欧州の金が全部アメリカに集まって、現在の日本の様な立場になったわけです。その後ドイツが賠償の支払いが大変だということで、ベルサイユ条約の破棄を申し出て、イギリス、フランス、アメリカ等が大変に困ってしまい、イギリスは保護貿易主義を取ったので、アメリカは輸出が止まってしまい、アメリカの金は株式や不動産に向けられ、ビルラッシュが起こりました。

そして、フーバー大統領が就任し、投機等を罪悪視する方でしたので、投機に対する金融は一切中止させましたので、アメリカの株式の大暴落をした原因の一つではないかといわれています。

当時の日本はアジア大陸に進出し、アジア経済圏を造る方向に走っていったわけです。それが後に第二次世界大戦に繋がったわけで、ソビエトは1917年にロシア革命が起き、欧州のナチスドイツの台頭と連動致しまして革命か戦争かといったことで、第二次世界大戦に発展して行ったわけです。

日本は敗けて何も無くなり、それが今日の40年後の姿になったのですが、当時の世界の背景と現在の情勢の違う方一の点は、金本位制では無かったということで、それと革命か戦争ということではなく、所謂デタントと云う状況で、ソビエトは軍事大国化したものを核兵器の廃絶と云うことで、アメリカも財政悪化を軍事費の縮少を計る方向に進んでおり、時代の背景が違っており、世界中の垣根を無くしようとする方向に向って、人と物と金の垣根を取り払ってしまうということで、金は自由化となり、円が140円台になっており、これにより日本の石油会社は90日分の石油の備蓄を義務付けられており、1ヶ月の原油の消費量は1億バレルですか

ら3億バーレルの在庫を法律で義務付けられております。処が日本の在庫が1兆7千億円相当ありましたが、円高と1985年以来原油の値下りで、わずか半年の間に3千億円に減価してしまつた。この様な損失を埋めるには変値をしなければならないので、投機による企業の自己防衛をやらなくてはならないといわれている。

昨日の日経新聞に出ておりましたが、摂氏35°Cで超電導になる物質を開発し、産業革命が5年か10年後に起こるであろうといわれています(記事参照)。日本の技術も或る程度まで行っておるようで、従つて10年後には、おそらく過去100年に匹敵する位の生活変化が行なわれるといわれております。

日本の景気も拡散が拡がっており、景況の格差が拡がっており、首都圏で日本の国税収入の40数%が上っておるといふことは、第三次産業が集中しておるといふことで、第三次産業に占める就業人員は全国平均では57%ですが、東京都に於ては80%を超え、従つて円高の影響を受けにくい構造になっておる。

住宅着工の戸数も前年度比25%増と全国平均2倍の記録を示しており、首都圏と我々地方との格差が非常に拡がっている。これを直すには農業問題に手を入れなければならない。

今株価は暴騰しており、株に対する尺度が変わつて来て、金余り現象になっております。来年3月までにはダウ3万円位になるのではないかと云われています。

## 摂氏35度で超電導

### モスクワ大グループ開発

ソ連のモスクワ大学低温研究所のV・モシャルコフ博士らのグループが摂氏三五度(絶対温度三〇八度)で超電導になる物質を開発したことが八日明らかになった。モスクワ大学を訪問した大槻義彦・早稲田大学教授によると、モスクワ大学グループは同温度で電気抵抗がゼロになると述べており、新物質はまだ不安定だが、世界初の冷却材がいらぬ室温超電導実現の可能性が出てきた。この温度で超電導が実現すると送電ロスがない電線など超電導の産業利用はいつきに広がる。(関連記事13面に)

・バリウム・銅の化合物にスカンジウム、ストロンチウムとある種の金属元素を加えた。試料は約一カ月間に三回別々に作り、いずれも摂氏三五度で超電導を示したという。超電導物質の証拠になるマイスナー効果(外部からの磁気を完全にシャットアウトする現象)もそのうち一回は確認しているという。昨年末以来従来より高い温度で電気抵抗ゼロで電気を流す新しい超電導物質が続々見つかった。今回の成果はその最高記録。昨年初めから一年余りの間に電気抵抗がゼロになる温度は二八五度も上がった。モシャルコフ博士らは近く成果をソ連の学会誌に発表する。

次週例会 6月17日 卓話 吉田 晃会員

次々週例会 6月24日 会長幹事慰労会 午後6時30分より 二洲楼